



## 1. 基本情報

研究代表者 氏名: 梶谷 真司	所属部局: 総合文化研究科
題目(和文・英文)	
(和文) 21世紀における共生の理論と実践 (英文) Theory and Practice of Co-Existence in the 21 <sup>st</sup> Century	
概要	
<p>今日の「共生」というテーマは自然と人間、技術と人間、さらに人間どうしについても、国籍、性別、世代、職業、学歴、病気や障害の有無など、きわめて多様な側面をもつ。本企画研究では、こうした多様なものの差異と境界、包摂と排除の複雑で変化しやすい様相を理論的に考察するとともに、NPO や NGO などの組織とも協働し、社会的実践としても活動してきた。そのさい拠点となったのは長年このテーマに取り組んできた総合文化研究科の「共生のための国際哲学研究センター」(UTCP)であり、情報学環や東洋文化研究所と連携することで、日本を中心として東アジアの研究者とも交流ができた。</p>	

## 2. 研究分担者

研究分担者	所属機関・職位
梶谷 真司	総合文化研究科・教授
中島隆博	東洋文化研究所・教授
吉見俊哉	情報学環・教授
佐藤麻貴	総合文化研究科・特任講師
中里晋三	ヒューマニティーズセンター・特任研究員

### 3. 研究成果

#### 【書籍】

##### 〈単著〉

・中島隆博『思想としての言語』、岩波現代全書、2017年9月、全272頁。

\* この本は東アジアにおける言語の哲学を扱ったものである。日本と中国の言語論が、古今を貫いて同様の問題系を構成していることを明らかにした。

##### 〈共編著〉

・中島隆博・石井剛『ことばを紡ぐための哲学——東大駒場・現代思想講義』、白水社、2019年4月、全216頁

\* 「動詞」を中心に東アジアの概念を論じた。中島は、「食べる」という動詞を選択し、それに関する礼や宗教的意義について論じた。

・中島隆博・吉見俊哉・佐藤麻貴編『社寺会堂から探る 江戸東京の精神文化』、勁草書房、2020年10月、全240頁

\* 東京には多くの神社・寺院・会堂といった宗教施設があるが、平和裡に共存している。そのうち6施設と協力し、横断的に江戸と東京の精神文化の変遷について論じた。

##### 〈共著〉

・梶谷真司「私有から共有へ——資本主義のその先にある豊かさ」、日立東大ラボ編『Society 5.0 人間中心の超スマート社会』、日本経済新聞出版社、2018年10月、229—240頁。

\* 資本主義と環境破壊の関係、都市と地方の格差などの問題にどのように対処するかを、所有の形態の変化から論じた。

・梶谷真司「話す・聞く」、中島隆博・石井剛編『ことばを紡ぐための哲学——東大駒場・現代思想講義』、白水社、2019年4月、34—57頁。

\* 動詞から哲学的な問題を考察する論集で、「話す・聞く」について、哲学対話の事例を基に考察した。

・梶谷真司「生徒も教員も楽しい授業へ——哲学対話から得られる主体的学びのヒント」、『教職研修』編『ポスト・コロナの学校を描く～子どもも教職員も楽しく豊かに学べる場をめざして』、教育開発研究所、2020年8月、127—138頁。

\* 近年学校教育に導入された探求学習や、新学習指導要領に掲げられた「対話的で深い学び」に見られる主体的に学びについて、哲学対話の観点から批判的に考察した。

・梶谷真司「地域の問題に深い解決をもたらす」、河野哲也編『ゼロからはじめる哲学対話: 哲学プラクティスハンドブック』、ひつじ書房、2020年10月、72—80頁。

\* 近年様々なところで活用されている哲学対話の実践ハンドブック。梶谷は地域コミュニティへの導入の章を担当した。

・Takahiro Nakajima, "Civil Spirituality and Confucian Piety Today: The Activities of Confucian Temples in Qufu, Taipei, and Changchun," Pages: 153–175, in *The Varieties of Confucian Experience: Documenting a Grassroots Revival of Tradition*, Ed. Sébastien Billioud, Leiden; Boston: Brill, July 26, 2018

\* 中国における儒教復興をフィールドワークした成果をまとめたもの。中島の担当は曲阜と台北そして長春の孔子廟であり、その比較研究を行った。

・中島隆博「世界哲学と東アジア」、東京大学東アジア藝文書院編『私たちはどのような世界を想像すべきか：東京大学 教養のフロンティア講義』、トランスビュー、2021年5月、69–97頁。

\* 世界哲学史全 9巻を2020年に刊行したが、その文脈の中で、東アジアを世界哲学的にどう論じるのかを考えたものである。

・中島隆博編『世界哲学としてのアジア思想：企画研究「21世紀における共生のための理論と実践」』、Humanities Center booklet 第2巻、東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター、2019、全73頁。

\* 2018年12月9日にヒューマニティーズセンターのイベントとして開催した同名のシンポジウムの記録。

#### 【論文】(査読の有無を明記)

・梶谷真司「共に考えることと共にいること——哲学対話による新たなコミュニティの可能性」、実存思想協会編『実存思想論集 XXXVI 哲学対話と実存』、2021年6月、7–28頁。

・中島隆博「わたしたちの共生——パーソナルなものをめぐって」、『世界思想』特集 共生、48号、2021年春号、世界思想社、2021年4月、94–97頁。(査読無し)

\* 「共生」をめぐる最新のシリーズに寄稿したもので、「共死」に陥らない「共生」の可能性を「パーソナルなもの」という概念から探究したもの。

#### 【口頭発表】

・Shinji Kajitani, "The Ethos and Nomos of Inclusion: A Philosophical Reflection on Why and How We Live with Diversity", Summer School *Globalization and Diversity* 2018, Georg-August-Universität Göttingen, Germany, August 3, 2018.

\* なぜ、いかにして私たちは多様性社会を作っていくのかを、社会的包摂について倫理と規範との関連で論じた。

・Shinji Kajitani, "Design as Theory and Practice for Social Inclusion", 「其餘的興起」第二十届文化研究年會暨國際研討會 (The Rise of the Rest: A Conference of the Twentieth Anniversary of Cultural Studies Association), 於 台湾国立交通大学, March 10, 2019. (基調講演)

\* 社会的包摂についての理論と実践を、デザイン、とくにインクルーシヴ・デザインの観点から論じた。

・梶谷真司「思考の自由と排除なき共同性——哲学対話による新たなコミュニティの可能性」、第36回実存思想協会臨時大会講演会「哲学対話と実存」、於 Zoom、2020年10月25日。

\* 哲学対話は他者との関係性を独特の仕方で作る面があり、共同体論としての可能性を持っている。本稿ではそれを異質さに基づいて成立する共同体として提示した。

・中島隆博 “운동주 우리의 동시대인” 基調講演、韓国語、Yoon Dong-Ju Centennial International Conference: “A New Path,” College of Liberal Arts Centennial Hall, Yonsei University, Seoul, Korea, December 8<sup>th</sup>-9<sup>th</sup>, 2017.

\* 尹東柱という韓国の国民的詩人の生誕 100周年において、基調講演を行ったもの。韓国語で詩を書いたことで日本で殺されたことの意義について論じた。

- ・Takahiro Nakajima, "Universalizing *tianxia* in East Asian Context," in Bergren Institute (PKU) "Tianxia in Comparative Perspective: Alternative Models of Geopolitical Order," April 18, 2021.
  - \* 近年中国で盛んに論じられている「天下」概念をめぐるシンポジウムで、その普遍化の可能性と限界を日本の経験に照らし合わせながら論じた。
- ・中島隆博「根源的な偶然性に触れる——日本と中国の比較を通じて」、比較思想学会シンポジウム、2021年6月26日。
  - \* 九鬼周造と王充を取り上げることで、日本と中国の「偶然性」に関する比較研究を行った。この世界そのものが偶然であるとする九鬼の「原始偶然」を中心に論じたものである。

## 【その他】

### ワークショップ・シンポジウム

- ・2017年7月30日(日)14:00~17:00
  - @東京大学駒場キャンパス KOMCEE WEST 303
  - 「戦争の語り方」
  - 持田睦(演出家)
  - 佐藤香織(哲学研究者)
  - \* 戦争を語る時、悲惨さや犯罪行為、平和といった特定のテーマに限定され、戦争について考える幅を狭めている。今回は演出家と哲学研究者を呼んで、より広い視点から自由に戦争について話し合った。
- ・2017年10月15日(日)14:00~17:00
  - @東京大学駒場キャンパス KOMCEE WEST 303
  - 「哲学のビジネス化」
  - 三宅陽一郎(スクウェア・エニックス テクノロジー AIリサーチャー)
  - 吉田幸司(クロス・フィロソフィーズ代表取締役)
  - 堀越耀介(SCiP メンバー)
  - 岡田基生(上智大学 哲学徒)
  - \* 哲学のビジネスへの活用について、ゲームクリエイターからはゲームのキャラクターにどのように身体をもたせるかという観点から、哲学的な手法で企業コンサルをしている人からは、どのように会社経営に哲学が生かせるか話してもらい、哲学の実践的可能性について考えた。
- ・2017年11月11日(土)14:00~
  - @東京大学駒場キャンパス 17号館2階 KALS
  - 「ステキな問いの忘れ方」
  - 梶谷真司(哲学者)
  - \* ポッキーの日にちなんで、参加者はポッキーを持参し、ワークショップで何をするのか参加者自身に企画してもらい、インクルーシヴな場の作り方について議論した。
- ・2017年12月3日(日)14:00~
  - @東京大学駒場キャンパス KOMCEE WEST 303
  - 「問いのアバンチュール」
  - 夏生さえり(ライター)
  - 梶谷真司(哲学者)
  - \* 「私以外は私じゃない」のか？という疑問をもって梶谷にインタビューに来た時の対話の記事で話題になったライターのさえりさんと呼んで、ライブで対話を行い、問いかけによっていかに対話が哲学的になるかを実演した。

- ・2017年12月17日(日)午前10:00～／午後13:00～  
 @東京大学駒場キャンパス KOMCEE WEST201  
 「Knowledge Forest 知の森～つながる、広がる、図書館  
 河本有香(デザイナー)  
 梶谷真司(哲学者)  
 \* 河本さんは図書館で“森”を作るワークショップを行うデザイナーである。古書を材料にした和紙を葉の形にして、そこにお勧めの本を書いて紐で結び、いろいろな人をつなげていく。当日は実際に森を作り、そのあと「つながり」について対話をした。
- ・2018年5月8日(火)17:00～18:30  
 @東京大学駒場キャンパス 101号館2階研修室  
 「第11回山川健次郎レクチャーシリーズ」  
 Steven Smith(Yale University)  
 Political Philosophy and the Dark Arts  
 \* イェール大学の政治学の教授、スティーブン・スミス氏から政治哲学の意義や方法、他の学問との違いについて講演していただき、政治哲学という学問の根本から再考した。
- ・2018年5月22日(火)17:00～18:30  
 @東京大学駒場キャンパス 101号館2階研修室  
 「第12回山川健次郎レクチャーシリーズ」  
 Fredrik Savje(Yale University)  
 Causality and Data  
 \* イェール大学の政治学の准教授フレデリック・セブジェ氏から、社会科学に置いて扱う事象に見られる因果関係あるいは相関関係について、その意味と特徴についてお話しいただき、その確率論的性格と方法上の限界について議論した。
- ・2019年5月28日(火)17:00～18:30  
 @東京大学駒場キャンパス 18号館4階コラボレーションルーム1  
 「第15回山川健次郎レクチャーシリーズ」  
 Alexander Coppock(Yale University)  
 Persuasion in Parallel  
 \* イェール大学の政治学の准教授アレクサンダー・コポック氏が、政治・政策に関する賛否が人々の間でどのように形成されるかについて講演し、賛成する政策と反対する政策の両方に関する情報が重要だという見解であった。
- ・2018年5月31日(木)10:30～14:30  
 @東京大学駒場キャンパス 101号館研修室  
 「Phillip Thomas 氏講演会」  
 フィリップ・トーマス(テュービンゲン大学)  
 第1部(10:30～12:00)  
 Providing Orientation by Philosophizing at School  
 第2部(13:00～14:30)  
 Theory of Person and Perception in Schmitz' Phenomenology  
 \* トーマス氏は、哲学教育の専門家であると同時に、梶谷と同じヘルマン・シュミッツの研究者でもある。第1部では「考える力」を学校で育成するさいに哲学がどのように役立つのか、特に現象学とポストモダンを例に説明した。第1部では人格と知覚の関係について、シュミッツの現象学の立場から話した。

・2018年6月12日(火)17:00～

@東京大学駒場キャンパス 18号館コラボレーションルーム1

「Pierre-Antoine Chardel 氏講演会」

ピエール・アントワーン・シャルデル(フランスのパリ高等鉱業電信研究所(IMT)・社会科学高等研究院(EHESS))

Technological Ambivalence in the Hypermodern Era. An Eco-Ethical Approach to our Digital Environment

\*シャルデル氏は、環境問題とテクノロジー、とりわけITとの関係について、日本の今福友信の思想とフランスのベルナル・シュティグレールの思想を突き合わせることで、自然に対する人間の関わり方の倫理的問題について講演した。

・2018年6月17日(日)14:00～

@東京大学駒場キャンパス 17号館2階 KALS

「ルワンダへの恋、ルワンダからの問い」

加藤雅子(ルワンダに取り憑かれている山羊座の女)

梶谷真司(哲学に飽きた双子座の哲学者)

\*ルワンダが好きで現地の人の隣人として生活している加藤さんを招いて、ルワンダの日常から感じた問いを出していただき、そこからルワンダと日本の“当たり前”について対話を行った。

・2018年10月6日(土)13:00～

@東京大学駒場キャンパス KOMCEE WEST 405

「音楽と想起のコミュニティ」

アサダワタル(日常にギリギリこだわる放浪芸人)

梶谷真司(凡庸さにネチネチこだわる哲学者)

\*ミュージシャンのアサダさんは、大阪の釜ヶ崎や福島の被災地で、音楽やラジオを通して様々な境遇の人が出会い、つながる場を作ってきた。その活動について話していただき、即席のラジオ番組をしていただいた。

・2018年11月1日(木)17:00～

@東京大学駒場キャンパス 101号館研修室

「Dan Öberg 氏講演会」

ダン・エーベルク(スウェーデン防衛大学)

War as a continuation of creativity by other means

\*エーベルク氏は戦争研究の第一人者であり、今日の社会において「創造性」は特別な価値を持っているが、それを戦争、特に軍事技術との関係で考察する内容で講演を行った。

・2018年11月20日(火)17:00～

@東京大学駒場キャンパス 101号館研修室

「Robert Harvey 氏講演」

ロバート・ハーヴェイ(ニューヨーク州立大学)

From Hopelessness to Hope: Spaces for Ethics

\*ハーヴェイ氏は、アメリカにおけるフランス現代思想の代表的研究者であり、今回は、絶望と希望の交差する地点を倫理の空間として捉え、フォーコーやブロッホを援用しながら、今日の倫理の可能性について議論した。

- ・2018年12月9日(日)13:00~18:00

@東京大学本郷キャンパス 東洋文化研究所3階第1会議室

シンポジウム「世界哲学としてのアジア思想」

陳少明氏(中山大学)

ブレット・デーヴィス氏(メリーランド・ロヨラ大学)

黄鎬徳氏(成均館大学)

後藤絵美(東京大学東洋文化研究所)

石井剛(東京大学大学院総合文化研究科)

\*このシンポジウムでは、哲学を西洋のものとする捉え方を転換して、どの地域の思想も普遍的課題をもった「世界哲学」であると考え、アジア思想をそのようなものとして位置づけ、その可能性を議論した。
- ・2018年12月23日(土)13:00~

@東京大学駒場キャンパス KOMCEE WEST 303

「『ぐるぐる回る光の中で』~映画をめぐる試行錯誤×対話ワークショップ」

中里龍造(DAYDREAM THEATER)

梶谷真司(UTCP)

\*中里氏の映画制作は、スタッフとそのつど考えながら進めていくという対話的手法をとる。その制作過程の話聞いた後、「異なる人が一緒に何かを作る」ことについて哲学対話を行った。
- ・2019年6月21日(金)~23日(日)

@東京大学駒場キャンパス 18号館・21KOMCEE WEST

Deleuze / Guattari Studies in Asia, 7th international conference

Organizer

Koichiro Kokubun (Professor, Tokyo Institute of Technology)

Joff P.N. Bradley (Associate Professor, Teikyo University)

\*フランス現代思想の代表的人物であるジル・ドゥルーズとフェリクス・ガタリをテーマとする国際会議。参加者100名を超え、3日間にわたり活発な議論が繰り広げられた。
- ・2019年6月30日(日)14:00~

@東京大学駒場キャンパス KOMCEE WEST 303

「文を以て人を繋ぐ」

高橋元氣(おもさげねっと新聞記者)

梶谷真司(たあけかって哲学者)

\*教育困難校とされる都立大山高校での哲学対話の活動について記事を書いた日経の記者と、大山高校の生徒たちとともに、活動と記事について振り返った。
- ・2019年7月6日(土)14:00~

@東京大学駒場キャンパス KOMCEE EAST 211

「「ために」から「ともに」へ~インクルーシヴ・デザインによる関係性のつくり方」

山田小百合(インクルーシヴな環境の探求者/Collable 代表)

梶谷真司(エクスクルーシヴな環境の破壊者/UTCP センター長)

\*障害のある子どもたちと共に学ぶ場をデザインするNPO法人 Collable の代表の山田さんとインクルージョンとそのような場の作り方について共に考えた。

・2019年7月28日(日)14:00～

@東京大学駒場キャンパス KOMCEE WEST 303

「哲学×言語～全人類が可能なコミュニケーションとは？」

松田崇弥(株式会社ヘラルボニー)

菊永ふみ(一般社団法人 異言語 Lab.)

梶谷真司(国立大学法人東京大学)

- \* 障害者アートをプロダクトとしてビジネスに結びつける松田さんと、耳が不自由な人と健常者との交流の機会を作る菊永さんを迎え、発話言語に限定されないコミュニケーションの可能性について考え、筆談による哲学対話を行った。

・2019年10月26日(土)14:00～

@東京大学駒場キャンパス KOMCEE WEST 201

「LANDSCAPE⇔SOUNDSCAPE 聞く・聴く・きく」

オンガクカ 小野龍一

テツガクシャ 梶谷真司

- \* 現代音楽の作曲家である小野氏を迎え、共創的な活動としての音楽の可能性について考え、参加者全員で作曲・演奏するワークショップを行った。

・2019年12月21日(土)14:00～

@東京大学駒場キャンパス 18号館コラボレーションルーム3

「哲学コレクティブ@UTCP&UTCP Xmas Party」

阿部ふく子(新潟大学)

- \* UTCP の研究員だった阿部ふく子さんは、新潟県燕市で地元の人たちと協力して、哲学をコンテンツとして人々が集まる場「つばめの学校」を運営している。その活動について報告してもらい、地域づくりのための哲学の可能性について議論した。

・2019年12月22日(日)14:00～

@東京大学駒場キャンパス KOMCEE WEST 303

「いかにして愛のために出会いの場をデザインするか」

石原鉄兵(出会いと結婚を心から応援するバツイチ独身男／(株)マハロー)

井上敬一(誰よりモテたい“モテさせ屋”／(社)恋愛・結婚アカデミー協会 代表理事)

梶谷真司(婚活イベント好きの哲学野郎／(東大)ユーティーシーピー)

- \* 哲学対話は婚活に向いているという考えのもと、一緒に活動してきた婚活会社の石原さんと、恋愛・結婚アドバイザーの井上さんとともに、恋愛のために人が出会う場をどのようにデザインするのかワークショップを行った。

・2020年1月12日(日)14:00～

@東京大学駒場キャンパス KOMCEE WEST 303

「障壁のある人生をどのように生きるのか」

伊是名夏子(身長100cm ちょっぴり辛口コラムニスト)

藤原雪(シングルマザー院生)

Michael G. Peckitt(Disabled Writer & Academic)

稲原美苗(声が出せない哲学者)

梶谷真司(おしゃべりな哲学者)

- \* 体の障害のみならずシングルマザーとして研究する時にも「障壁」がある。そうした困難とどのように向き合うのか、それが可能になる場はどのようなものかについてワークショップを行った。

・2020年10月18日(日)14:00~16:00 @Zoom

「ビジネスの哲学化——なぜ、企業経営に哲学が必要とされるのか？」

小野塚恵美(カタリスト投資顧問株式会社 取締役副社長 COO／

ジャパン・スチュワードシップ・イニシアティブ(JSI)運営委員会委員長)

成田真弥(リアルテックホールディングス エンビジョンマネージャー)

吉田幸司(クロス・フィロソフィーズ株式会社 代表取締役社長)

山野弘樹(東京大学大学院博士課程・日本学術振興会特別研究員 DC1)

梶谷真司(東京大学総合文化研究科 教授／UTCP センター長)

\*今回は哲学をビジネスに応用するのではなく、ビジネスの方を哲学的にすることについて、その必要性和方法について議論し、今後の展望について考えた。

・2020年11月26日(木)20:00~ @Zoom

「ただ自分自身でいられる場を求めて」

紫原明子(エッセイスト)

梶谷真司(哲学者)

\*エッセイストとして活躍する紫原さんは、「もぐら会」というただお互いの話を聞くだけの場を運営している。その活動についてお話を伺い、一方的に「話す」と「聞く」ことの意義と、その場の持つインクルーシブな力について考えた。

・2020年11月29日(日)13:00~18:30 @Zoom

シンポジウム 封鎖都市と演劇身体

~GLOBAL PANDEMIC 2020 の中に如月小春を甦らせる

セッション 1:20世紀末都市の彼方から——消費都市と演劇する身体

[パネリスト]

如月小春

細川周平(音楽学者、国際日本文化研究センター名誉教授)

土佐尚子(メディアアーティスト、京都大学教授)

高山明(演出家、東京芸術大学准教授)

堀内仁(演出家、LABO!)

司会進行:吉見俊哉

セッション 2:ニッポンの終わり、浮上するアジアと女性

如月小春

李静和(成蹊大学教授)

矢内原美邦(振付家・演出家・劇作家、アジア女性舞台芸術会議代表)

羊屋白玉(演出家・劇作家・俳優、アジア女性舞台芸術会議代表)

相馬千秋(アートプロデューサー、芸術公社代表理事)

司会進行:吉見俊哉

セッション 3: 廃墟のなかから: 身体と声、言葉を立ち上げる

如月小春

野田秀樹(演出家・劇作家・役者、東京芸術劇場芸術監督、多摩美術大学教授)

横山佐和子(兵庫県立こどもの館館長)

外岡尚美(青山学院大学教授)

内野儀(学習院女子大学教授)

太下義之(同志社大学教授、国立美術館理事)

司会進行: 吉見俊哉

\* 2000 年に急逝した劇作家如月小春の没後 20 年記念シンポジウム。オンライン会議の特性を利用し、如月小春は声で登壇。20 世紀末都市の中での演劇の場所(セッション 1)、1990 年代のアジアと日本、そして女性たちの声の場所(セッション 2)、演劇人如月小春とは何者だったのかという問い(セッション 3)、という 3 つのテーマを設定し、それぞれのテーマに関連して如月自身に発言していただく。その発言から出発し、彼女と親交のあった面々が如月の“現在”を語った。

・2020 年 12 月 19 日(土) 14:00~ @Zoom

「子育てと哲学対話」

尾崎絢子(はなこ哲学カフェ)

高口陽子(ねりま子どもてつがく)

安本志帆(みんなのてつがく CLAFA)

モデレーター

梶谷真司(UTCP)

\* 子育てをしながら哲学カフェを運営してきた 3 人の女性とともに、子育て、母であることにとって哲学がどのような意義をもつのか、そこから哲学対話の可能性について考えた。

・2021 年 1 月 10 日(日) 14:00~ @Zoom

「哲学。をプロデュース！」

清水将吾(小説家)

永井玲衣(エッセイスト)

今井祐里(編集者)

梶谷真司(哲学者)

\* 哲学的小説を書く清水さんと哲学的エッセイを書く永井さんと、哲学のイベントを企画・運営し、哲学マガジンを編集する今井さんをお呼びして、プロデュースするという哲学のあり方について考えた。

・2021 年 1 月 16 日(土) 14:00~ @Zoom

「セックスという磁場を求めて~二村ヒトシさんとの対話」

二村ヒトシ(モテたい)

梶谷真司(イキたい)

\* AV 監督でありつつ恋愛本も書いている二村さんとともに、「性」やセックスがいろんな人が出会い、関心を共有する場としてどのような意義を持つのか、インクルージョンとしての「性」について考えた。

・2021年2月27日(土)14:00～ @Zoom

新たな結婚のカタチを求めて

Kakinoki Masato(性愛規範について考えるノンモノガミー)

Suzuki Daiki(恋愛ではない結婚をしたいパンセクシャル)

Matsuo Chie(こじらせをハピ恋へ導く婚活アテンダント)

Kajitani Shinji(哲学対話で婚活を変えたいフィロソファー)

\* 恋愛に基づかない結婚の可能性について考え、多様な性的マイノリティが安定して共同生活を送ることを可能にする制度について考えた。

・2021年5月30日(日)14:00～17:00 @Zoom

「居場所がなかったり、あったり、」

志村亜希子さん(樹の下ホーム; 自立援助ホームの職員)

渡邊洋次郎さん(リカバリハウスいちご; 依存症回復施設の職員)

梶谷真司(東京大学 UTCP; 哲学の教員)

中里晋三(東京大学 UTCP; 特任研究員)

\* 家族と暮らせない子供の自立支援施設の職員と、薬物・アルコールの依存症の人の回復施設の職員の人を迎え、「居場所」とは何か、その意義と可能性について話し合った。

・2021年6月13日(日)14:00～17:00 @Zoom

「カメラを持って、回して、そこにいる」

重江直樹さん(『さとにきたらええやん』監督)

田中悠輝さん(『インディペンデントリビング』監督)

梶谷真司(UTCP)

中里晋三(UTCP 特任研究員)

\* 日雇い労働者の街、大阪釜ヶ崎にある子どもの家と、障害者の自立支援団体のドキュメンタリー映画を撮った二人の映画監督を迎え、カメラでリアリティを捉えることの意義と難しさについて議論した。

#### 4. 今後の研究の展望

このプロジェクトにおいて得られたもっとも大きな収穫は、多くの講演会やシンポジウムを通してできた様々な人たちとのつながりである。そのなかにはむろん研究者もいるが、ビジネスパーソン、デザイナー、音楽家、演出家、映画監督、エッセイスト、ライター、編集者、NPO 法人代表もいるし、一般の主婦の方たちもいる。共生の理論も実践も、ただ研究者が取り組むことではなく、社会の中のさまざまなアクターが協働しつつ作っていかなくてはならず、哲学はこのような形での共創へと変容させていかなければならない。またこのプロジェクトで関わった人たち自身がそうした共創的な精神と活動をしている人である。彼らとのコラボレーションはこのプロジェクトを通して達成されたのではなく、始まったのであり、今後は彼らとともに様々な場面でのインクルージョンを個別具体的に実践しつつ、研究者としてはそれをより一般的な理論と枠組みへと発展させていくのが課題である。それを引き続き、とくに教育、地域コミュニティ、福祉、ビジネス、社会活動の各分野でさらに展開していきたい。